

米價の變動 (1927年末100)

1929年	5月17日	50.4	51.5	56.1	55.9	66.2
-------	-------	------	------	------	------	------

生産の指数 (1929年100)

1929年	1930年	1931年	1932年1月	5月	6月	11月
110.0	102.5	102.1	106.3	114.1	117.9	120.8

貿易の狀態 (單位千圓)

年月	輸出	輸入
1930 12	130,305	107,291
1931 12	85,179	118,738
1932 7	114,118	74,134
同 11	156,990	125,844
同 12	176,943	170,844
1932 1-12	1,457,296	1,524,529
1931 1-12	1,179,211	1,319,456
1931 1-9	914,474	1,030,602
1930 1-9	1,143,470	1,358,422

濟する事にはならなかつた、輸出貿易の關係は一九三〇年
末から三二年末にかけて驚くべき程困難になり一九三〇年
十二月と三二年十二月において三千三百萬圓の減少を見て
ゐる。更に生産關係をみると、その指數において一九二九
年の一〇〇.〇に對する一九三〇年の一〇二.五、一九三一
年の一〇二.一に低下せる狀態にまで追いつめられたので
ある、更にデフレーション經濟の疲弊は前記銀行預金の上
にも具體的に表はれてゐるのだから、ともあれデフレー
ション政策は日本資本主義の再編成として採用されながら
國內中小資本家の怨味の的となり、凡ゆる矛盾の擴大に當
面して一九三二年末頃から遂にインフレーションへの轉向
を餘儀なくされたのである、即ち國內産業の萎縮と輸出貿
易の關係において、極めて高度の關稅障壁を設けながらも
輸出總額を非常に收縮せしめた、隨て、國內中小資本家の
反感となり……この事は後述する處の國民主義或は國家
社會主義と言ふ形において政治的に發展した……軍閥と
財閥と官僚の政治的經濟的トリツクに依つてインフレーシ
ョン政策を採用したのである。

今インフレーション前後の我が國經濟界の動向の一面を
示すと

大體以上の様な數字が出て來るのである。即ち一九三〇
年から三二年に及ぶ株價の低下に於て、生産の指數減少は一
時を糊塗する命再禁止を採用したのであつて、それ以後に
おける財界の幾分緩和されてゐる事は數字の上に表示されて
ゐる事實だ、だが前記金融に關する場面に述べた如くこの
財界の立て直しは極めて不安定の上に立つ、一時的な現
象とみるべきで順調なる經濟として確立したものはな
らぬ、殊に現時政府の政治政策である軍閥、軍事工業の派生
としてのインフレーションとみるべきで不相應な公債開發の不健全
な財政政策と一般大衆の消費力の相對的減退とに依つて益
々その基礎を危くしてゐるのである、この經濟的情勢にあ
つて日本の無産大衆は如何なる影響をうけてゐるか。

インフレーションと労働者の生活

萎縮した日本資本主義を救済すべく起ちあがつたインフ
レーションの波は果して勞農階級に如何に影響しつゝあるか、農民
に與へた影響はしばらく措くとして、我々は以下物價と賃
金と労働時間と労働人員とに就いて若干の記述を試みる。

既に我々は生産指數の討究において一九三二年十一月に
二〇.〇、八の數字を知る事が出来たのであるが、これに要

した労働人員指數は總人員指數において六・二の減少をみ
てゐるのである、注意すべきは男の指數の低下と女の指數

労働人員指數 (昭和元年100)

年次	5年平均	6年平均	7年8月	同9月	同10月
總指數	82.0	74.4	74.7	75.5	75.8
男	91.3	81.0	78.8	79.5	80.1
女	73.0	68.0	70.7	71.6	71.6
粉 齏	79.7	62.4	63.1	63.5	62.9
機械製造	10.7	96.5	101.8	103.9	106.4
金屬製品	101.1	90.3	89.3	90.8	92.0
織 業	82.4	69.9	66.0	66.2	66.7
印刷業本	98.1	99.3	90.5	90.9	91.3

の低下との割合であつて%の上には女の労働者は相對的に
増加したと言へるのである、更に労働時間の狀態は日銀の
統計に依ると六年十月の平均労働時間九時三十三分が、
九時三十九分に延長してゐる、就中機械器具工業において
は二十七分の延長だ、賃金とその指數は實收賃金において
は一九三二年八月以降稍上昇を示してゐるけれど共定額賃金
は依然として低下の傾向にある、即ち十月の總指數は八七
・三、男工指數は八八・二、女工指數は八二・二であつて